



## 6月になるとどうしてつゆになるの

### 梅雨前線ができる

温度や湿度などの性質が同じような、空気の大きなかたまりを気団といいます。

6月ごろになると、南の小笠原の方に高気圧が発達して、小笠原気団となります。この気団は温度が高く、また、水分をたくさんふくんでいて湿度も高く、日本の近くにおしよせてきます。

一方、北のオホーツク海の方では、オホーツク海気団が、だんだんと南の方に動いていきます。この気団は温度が低く、やはり、水分をたくさんふくんだ気団で、北日本のあたりをおおいます。

このオホーツク海気団と小笠原気団が、日本の上空でぶつかりあいます。すると、二つの気団の間には、東西に梅雨前線という境目ができて停たいします。

梅雨前線ができると、くもりがちの天気になります。この前線の上を低気圧が次々と東へ進んでいくので、雨の日が多くなります。これがつゆです。つゆは、ふつう、6月から7月の中ごろまで続きますが、沖縄は5月から6月がつゆ、北海道は、ほとんどつゆがありません。

### つゆ明け

7月の中ごろをすぎると、オホーツク海気団（高気圧）はおとろえていきますが、小笠原気団（高気圧）は、勢いを増してきます。そして、日本付近に停たいしている、梅雨前線を北の方へおしやるので、ぐずついた天気や長雨がなくなります。これをつゆ明けといいます。（監修・村山 貢司）

